

教育研究創発国際研修における学術活動報告書

令和4年2月28日

氏名 渡邊晃一朗

所属 生涯学習基盤経営 コース

指導教員名 影浦峽

1. 研究課題 アカデミックライティング教育のための引用・参照に関わる要素の分析
2. 報告する学術活動の実施期間 令和4年2月16日 ~ 令和4年2月18日
3. 日本学術振興会特別研究員 (DC) の現在の採用状況 DC1 DC2 採用無し
4. 学術活動
 - 国外 国内
 - ①英語論文公表
 - ②研究科教員の研究プロジェクト参加
 - ③フィールドワーク
 - ④国際会議 (研究発表 運営補助 出席のみ)
 - ⑤研究会 (研究発表 運営補助 出席のみ)
 - ⑥研究指導委託
 - ⑦留学
 - ⑧国際研修
 - ⑨国際インターンシップ
 - ⑩その他 (具体的に:)

5. 学術活動実施の概要

※上記4で選択した学術活動について具体的に記載してください。括弧内の概要を必ず記載してください。

- ① 英語論文公表
(著者、発表論文名、掲載誌名等、発表年月巻号、発表年月日等、論文内容の概要)
- ② 研究科教員の研究プロジェクト参加
(プロジェクト名、代表研究者名、自身の具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、プロジェクトの概要)
- ③ フィールドワーク
(調査先機関等、国名・都市名、具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、調査先の概要)
- ④ 国際会議
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、学会・会議名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑤ 研究会
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、研究会名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑥ 研究指導委託
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究、研究テーマと受入教員、受入期間(年月日)、具体的な研究活動、研究発表内容等の概要)
- ⑦ 留学
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究科、受入期間(年月日)、具体的な履修状況、研究発表内容等の概要)
- ⑧ 国際研修
(プログラム名、派遣先機関、国・都市名、派遣期間(年月日)、プログラム概要、研究発表内容等の概要)
- ⑨ 国際インターンシップ
(プログラム名、派遣先機関、配属部署、国・都市名、派遣期間(年月日)、具体的な活動、プログラム内容等の概要)
- ⑩ その他(具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度等の概要)

学術活動区分 (①～⑩を記入)	①
<p>・著者名: Koichiro Watanabe, Kyo Kageura, Satoshi Sekine</p> <p>・発表論文名: A Descriptive Analysis of Cite Units from the Perspectives of Content and Linguistic Expression</p> <p>・掲載誌名: <i>LIBRES</i></p> <p>・発表年月日: 2021年12月</p> <p>・論文内容の概要: 研究の影響を評価するための引用の使用は十分に研究されているが、引用に伴い導入された内容とその言語表現を調査する研究は現状見られない。そこでこの研究では、引用された内容とそれを表現する言語表現を分析する。引用された内容を表す表現を言語表現の単位(語句と節)に従って分類し、引用された内容を概念類型の枠組みに従いに分類する。用語の概念類型はドメインへの適合を考慮しており、節の概念類型は主観性と一般性を考慮している。加えて、引用された内容の詳細な類型を例を挙げて説明し、7種類の詳細な類型を立てた。結果として、引用内容を表す表現のうち、語句が約40%、節が約60%を占めていることを示した。語句の大部分はドメイン固有であり、その35%は単一のものに言及していた。節のうち、50%は客観的で一般性を持たず、40%は客観的で一般的であり、10%は主観的であった。この調査では、引用されたものの記述を行い、引用された内容の類型を詳細化した。この結果は引用された内容の基本的な類型を示し、その分布を明らかにした。</p>	

- (注) ① 年月日は西暦で記入してください。
- ② 英語論文発表については報告する学術活動において発表又は受理されたもの。
- ③ 上記に記載しきれない場合は、ページを追加しても差し支えありません。
- ④ 複数回の学術研究活動による報告の場合、適宜本ページを追加し、2つ目以降についても必要な内容を網羅してください。

6. 学術活動による成果

※報告する学術活動について、教育分野における国際的リーダー人材の育成とその研究成果を海外に発信することを目的とした教育研究創発国際研修の趣旨に照らし、その成果を具体的に記載してください。学術活動により得られた自身の研究課題につながる成果についてもわかるように記載してください。

※本欄に書ききれない場合、ページを追加しても差し支えありません。

・目的と成果

本研究活動の目的は、「教育分野における国際的リーダー人材の育成とその研究成果を海外に発信することを目的とした教育研究創発国際研修」における後者の目的、すなわち「研究成果の海外への発信」である。本論文は図書館情報学分野の査読付き国際学術雑誌に掲載され、研究内容を発信した。

・自身の研究課題とのつながり

本論文の執筆及び査読、修正を経ることで、国際的な学術コミュニケーションに必要とされる経験の蓄積を目的の1つとしている。この経験は今後の国際的な学術活動において研究内容の発信の際に不可欠な経験であり、またその基礎となる技能を身につける過程として位置づけられる。